

# オンリーワンの技術で世界へ



## ～先端技術の応用と商社のマーケティング力～

グローバルな競争の中で、日本はどのようにして競争力を強化するのか？ 日本政府は、知財戦略の巧拙が日本の競争力の明暗を分けるという明確な認識から、2003年に知的財産戦略本部を設置、知的財産権立国を目指しています。伊藤忠商事は、先端技術を市場でいかに応用するかというマーケティング力こそ商社の得意分野であるとの認識から、先端技術戦略室を設置し知財戦略を進めています。繊維カンパニーも、繊維資材ライフスタイル

ル事業部がユニークな知財をビジネス化していくという「オンリーワン戦略」を掲げ、従来の繊維分野から裾野を広げて、知財戦略を進めています。今月号では①知的財産の発明からいかにマーケットで応用、ビジネスに結び付けていくかのプロセス②先端技術の応用からビジネス化を実現するビジネスマンに要求されるものとは？③日本の先端技術が開く新しい世界とは？—について、話し合っていました。



### 知的財産のビジネスへの応用

#### 「問題解決」を提供 シーズとニーズのマッチング

**山田** 日本の知財戦略が注目されています。「繊維月報」6月号は、著名な発明家として知られる市村昭二さん、中西幹育さんをお招きするとともに、伊藤忠の先端技術戦略室長の松見芳男さんに加わっていただき、「オンリーワンの技術で世界へ」のテーマで、日本企業が直面する課題について話し合っていました。

まず簡単に出席者をご紹介しますと、市村さんは光化学、有機半導体の権威で、04年2月、「電荷移動型触媒を利用したセルフクリーニングタイル」で日本

発明振興協会主催の「発明大賞」を受賞されました。中西さんは曲面印刷技術—これは世界の自動車メーカーがハンドルの木目模様印刷などで採用していますが、この発明のほか、生卵を18メートルの高さから落としても割れないほどの緩衝力を持つ「αゲル」などの開発、事業化などに取り組まれ、取得した特許の数は800件を超えておられます。また、当社の技術顧問も務めていただいています。

知的財産の発明をいかにビジネスに結び付けるか、松見さんから発言下さ

います。  
**松見** 20世紀にSFの世界と言われたことが、今後現実の世界になっていきます。ITやバイオ、ナノなどの先端技術がそのけん引車で、当社はそれらの科学技術をいかにビジネスにつなげ、社会に応用していくかを重要テーマに位置づけています。

商社は「売った買った」の世界で生まれ育ち、そこからの脱却を進めてきました。今後は開発される技術を初期の段階から手がけ、それをいろいろな商機につなげ収益源とします。

先端技術戦略室は約3年前に3人のスタッフで発足、現在メンバーは14人に増えました。伊藤忠は創業以来一貫して様々な業種・業態でのニーズやシーズを発掘し、パートナーと共にビジネスを創造してきました。先端技術ビジネスにおいてもこの方針を掲げ、取引先企業が新ビジネスや先端技術の展開

【出席者】(氏名50音順)

ファイラックインターナショナル(株)  
代表取締役 **市村 昭二氏**

鈴木総業(株)  
顧問  
(株)事業創造研究所  
会長 **中西 幹育氏**

伊藤忠商事  
先端技術戦略室長 **松見 芳男氏**

【司会】

伊藤忠商事  
繊維資材・ライフスタイル事業部長  
**山田 豊滋**